

<建設業会計 1級（財務分析）ミニテスト 10> 損益分岐点分析とその展開

【問題】 下記の A 社の資料を参照して解答しなさい。

【資料】

1. 第 39 期の完成工事原価報告書

完成工事原価報告書	
(単位：千円)	
I 材料費	1,000,000
II 労務費	500,000
III 外注費	1,500,000
IV 経費	<u>600,000</u>
完成工事原価	<u><u>3,600,000</u></u>

2. 第 39 期のその他のデータ

完成工事高 4,500,000 千円

販管費及び一般管理費 500,000 千円

営業外収益 60,000 千円

営業外費用 180,000 千円（うち支払利息及び割引料 100,000 千円）

(問) 建設業の損益分岐点を実施する場合には、簡便的に、販売費及び一般管理費と営業外費用中の支払利息（割引料を含む）を固定費とみなして、損益分岐点を算出することがある。この方法によって、A 社の第 39 期実績値に基づく損益分岐点売上高と損益分岐点比率を計算しなさい（損益分岐点売上高は円未満を、比率は小数点 1 位未満を四捨五入）

<解答>

損益分岐点売上高	3,068,182
損益分岐点比率	68%

<解説>

変動費＝3,600,000＋（180,000－100,000）－60,000＝3,620,000

固定費＝500,000＋100,000＝600,000

損益分岐点売上高＝ $X - 3,620,000 \div 4,500,000 X = 600,000$

$X = 3,068,182$